

長寿医療に関する国際研修プログラム開発とその効果検証に向けた研究（27-3）

主任研究者 遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

研究要旨

高齢者医療や認知症医療分野において国際共同研究推進、国際協調の促進のための研究成果の集約・グッドプラクティスの集約と共有、ケアや予防を担う人材の教育が喫緊の課題である。本研究は外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことを目的とした。具体的には、①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②英文テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、2週間の研修プログラムを作成した。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行い、個別対応も可能なプログラムとすした。海外連携促進は、ロシアを含む、アジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、長寿医療センターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、タイや台湾、マレーシアをはじめとするアジアの要となることを目指した。これらの研修により、その成果をモニタリングし、世界に高齢者医療、認知症医療、老年看護、高齢者介護に関する研修の一定の成果を得た。

主任研究者

遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

分担研究者

荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 副院長

牧 陽子 国立長寿医療研究センター 研修開発研究室長

A. 研究目的

平成26年11月に日本で開催されたG7認知症サミット後継イベントにおいて、国際共同研究推進、国際協調の促進のため研究成果・グッドプラクティスの集約・共有、ケアや予防を担う人材の教育が今後の課題として確認された。また認知症の地域包括ケアの文化的感受性（culturally sensitivity）に鑑みて、北米・ヨーロッパの二極に対する一極としてアジアからの発信を積極的に推進していくため、ナショナルセンターである長寿医療センターがアジアの拠点となるべく国際化を推進していく必要があると考える。本研究の目的は、

長寿医療研修センターにおいてアジアを中心とする外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことで貢献することである。すなわち国際交流は、長寿医療研究センターの目標の一つとして位置付けられ、本研究はその要となる。

B. 研究方法

(1) 全体計画

長寿医療に関する知識経験の国際的均てん化、標準化を目的に様々な研修を立案し、海外の研修の受け入れ先とする。①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②英文テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、2週間の研修プログラムを作成した。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行うこととする。さらに、日本における地域包括ケアを具体的に学ぶために、視察・実習も行う計画となっている。プログラム開発にあたっては、研究期間中に滞在する外国人研修生の協力を得て、研修を受ける側のニーズを踏まえた内容としていく。②の英文テキスト作成は、すでに日本語で作成されているテキストの英訳を行い、完成させた。③の海外連携促進は、ロシアを含むアジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、長寿医療センターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、アジアの要となることを目指すこととする。

(2) 年度別計画

27年度

海外研修の受け入れ、海外研修生のための長寿医療プログラムを作成した。当初は医師向けのプログラムを作成し、またプログラム作成にあたっては既存のテキストを参考にしつつ、海外研修生のニーズも踏まえ新規のテキストを作成した。同時に海外研修生受け入れの基盤整備を行った。

28年度

認知症サポート医研修テキストの英文化を行い、作成したテキストを元に、海外研修生を受け入れ、プログラム検証を行った、作成したプログラムの改定や、看護・リハ職向け研修プログラムを開発し、研修を研究対象とした。

29年度

台湾・タイ国、ロシア等これまで交流のある国から、連携促進、研修相互交換プログラムを図っていく、最終的には長寿医療センターをハブとする関係を構築し、積極的に研修を受け入れ、高齢者医療やケア、そして認知症の分野においても、アジアの要となること

を目指す。

(倫理面への配慮)

現時点では患者を対象とした研究ではないため、倫理面への配慮は大きな問題とはならない。しかし研究実施上、今後インタビューなど個人情報扱う必要があれば、当然倫理委員会に申請し、承認の後実施する。匿名化し、倫理的配慮を最大限行うこととする。

C. 研究結果

主な研究事業として、さまざまな国からの留学生、研修生に対して対応可能なプログラムの作成を行った。短期的、または長期的研修にも対応し、日本の高齢者医療の体系や長期介護、認知症対策について、講義、演習、国際交流を行った。海外研修生の受け入れプログラムの作成、受け入れ内規の整備も行った。今年度は表1にあるような、多数の海外研修生の受け入れを実施した。

またタイとの交流において、2年間にわたり認知症サポーター養成の導入を働きかけてきたが、遂にマヒドール大学シリラート病院の学長と老年医学教授を中心に、平成29年に認知症のモデル事業を開始する計画であり、タイ語による認知症サポーター養成テキストの作成が現在計画されており、タイにおける医療・介護ネットワークの構築と研修をスタートさせることができる予定であり、本研究の成果が表れてきた。表1に平成28年度の研修・視察うけいれ状況のリストを示した。

表1. 海外研修受け入れ一覧

海外研修生/視察受入れ一覧

平成28年度

No.	研修・視察目的	日数等	人数	国名	所属先	氏名	職種
1	Fellowship Program Training		1	タイ	Mohidol University	Poungkaew Thitisakulchai	医師
2	高齢総合診療科研修		1	台湾	China Medical University Hospital	Chang Chin Kai(張欽凱)	医師
3			1	タイ		Dr.Apirath Phulsawat	医師
4	インドネシア看護実践能力向上プロジェクト 老年看護分野(現場視察)	1	20	インドネシア	JICA インドネシア		看護師 ・インドネシア保健省
5		5	6	台湾	National Taiwan University Hospital Hsin-Chu Branch	Meng-Kan Chen	医師
						Ho-Hsien Lai	医師
						Hsiu-Yun Lai	医師
						Shu-Li Huang	看護師
						Yu-Ying Chu	看護師
						Chung-Mei Ouyang	管理栄養士
						Jung-Cheng Yang	理学療法士

6		5	1	台湾	Taipei Veterans General Hospital	Chin-Jen Wan	医師
7		1	約 50	タイ	Siriraj Hosp		医師・ 研究者
8	高齢総合診療科 研修	3 W	1	台湾	E-DA Hospital、Kaohsiung, Taiwan	Chi Hsien Huang	医師
9	医療技術等国際展 開推進事業		11	タイ	タイ保健省	MR.WANCHAI SATTAYAWUTHIPONG	
					Mohidol University	MR.SOMBOON INTALAPAPORN	医師
					Mohidol University	MISS PITIPORN SIRITIPAKORN	
					タイ保健省	MR.PISIT SRIPRASERT	
					Samutsakorn Hospital	MR.THAMMAWIT KUAKULKIAT	
					タイ保健省	MISS PATCHARA SATEANPUCTRA	
						MISS TITIMA WONGVIRIYAWONG	
						MISS CHALOBOL CHALERMSRI	
						MISS NAPAPORN PENGSONN	
						MISS SUTISA PITIYARN	
					Samutsakorn Hospital	MR.THANAPAT PUANGPET	
10	高齢総合診療科 研修	31	1	台湾	Taichung Veterans General Hospital	Ms.Wei-Ling Chen (Sylvia Chen)	医師
11	大阪医科大学 中 山国際医学医療交 流センター留学生 施設見学	1	5	台湾	国立臺灣大学	Mr. Mao, Yi Ning(毛奕 甯)	医学 部生
				韓国	韓国カソリック大学	Mr. Han, Yang Jun	医学 部生

			韓国	韓国カソリック大学	Mr. Lee, Jung Jun	医学 部生
			シンガ ポール	シンガポール国立大学	Ms. Han Xin Yi (Celina)	医学 部生
			シンガ ポール	シンガポール国立大学	Ms. Ruth Yap	医学 部生

D. 考察と結論

海外研修生に資する人材育成を行った。プログラムの改良は今後必要であるが、一定の成果があり、実際の活動につなげることが可能な研修であった。今年度はタイと台湾を中心に研修生の受け入れを行った。またマレーシアの研修はリハビリテーション職も参加しており、今後のさらなる関係の発展や、留学受け入れの希望もあり、多大な成果を得たといえる。結論としては、特にアジア地域の高齢化は最大の問題であり、今後医療や介護職の視察、研修が急増するものと思われる、当研修センターとして今後さまざまなメニューの作成を行い、テキストの英文化や、現地の言語化が必要であることが強く求められており、その分野への研究事業を展開する必要がある。

E. 健康危険情報

該当せず

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Aya Seike, Takashi Sakurai, Chieko Sumigaki, Akinori Takeda, Hidetoshi Endo, Kenji Toba: Verification of the Educational Support Intervention for Family Caregivers of Persons with Dementia, Journal of the American Geriatrics Society, 2016.3
- 2) Fumihiko MIZOKAMI, Yoshiko TAKAHASHI, Keiko HASEGAWA, Hideyuki HATTORI, Keiji NISHIHARA, Hidetoshi ENDO, Katsunori FURUTA, Zenzo ISOGAI
Pressure ulcers induced by drug administration: A new concept and report of four cases in elderly patients, Journal of Dermatology 2016;43:436-438
- 3) 遠藤英俊: 認知症の予防 認知症予防の最前線: 日精診ジャーナル 43 巻 1 号, 34-44, 2017.2
- 4) 遠藤英俊: 内科医からみる認知症と地域包括ケア: 日本社会精神医学会雑誌、第 26 巻、第 1 号, 78-81, 2017.2

2. 学会発表

- 1) 遠藤英俊:第17回日本認知症ケア学会大会 座長「認知症予防」2016年6月5日(日), 神戸
- 2) 大野久美子, 市橋芳則, 小島恵美, 遠藤英俊, 来島修志 (北名古屋市回想法センター, 北名古屋市歴史民俗資料館, 北名古屋市役所, 国立長寿医療研究センター, 日本福祉大学) 第17回日本認知症ケア学会, ポスター発表 G「回想法リーダー養成講座の実施と効果について」, 2016年6月5日(日), 神戸
- 3) 遠藤英俊, 西川満則, 高梨早苗:第21回日本緩和医療学会学術大会, シンポジウム 36 終末期の倫理的問題を考える, 2016年6月18日(土) 京都
- 4) 西原恵司, 佐竹昭介, 山田洋介, 川嶋修司, 遠藤英俊, 荒井秀典, 藤城健, 北川雄一, 川端康次, 深田伸二:「手術治療を受ける高齢者に対する, 基本チェックリスト(KCL)の有用性:術後経過・予後の予測可能性の検証」, 第58回日本老年医学会, 2016.6.7(火) 金沢
- 5) 清家理, 櫻井孝, 藤城あかり, 住垣千恵子, 福田耕嗣, 武田章敬, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鳥羽研二:「ケアラーの介護ストレスに対するセルフコーピング手法の効果検証」 第58回日本老年医学会, 2016.6.7(火) 金沢
- 6) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 三浦久幸, 遠藤英俊:「高齢閉塞性睡眠時無呼吸症候群患者のCPAP外来における基本チェックリストを用いたフレイル評価に基づく包括ケアによるアドヒアランス向上」, 第58回日本老年医学会, 2016.6.7(火) 金沢
- 7) 千田一嘉, 佐竹昭介, 西川満則, 徳田治彦, 近藤和泉, 三浦久幸, 遠藤英俊:「高齢 COPD 患者の呼吸リハビリテーション外来における基本チェックリストによるフレイル評価を活用した包括ケア」, 第58回日本老年医学会, 2016.6.8(水) 金沢
- 8) 櫻井孝, 武田章敬, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 服部英幸, 鳥羽研二, 住垣千恵子, 富田雄一郎, 佐々木千恵子, 清家理:「診断直後の認知症をもつ人および家族への教育的支援プログラム」, 第58回日本老年医学会, 2016.6.8(水) 金沢
- 9) 遠藤英俊:第58回日本老年医学会 高齢者医療研修会 「高齢者在宅医療」, 2016.6.10(金) 金沢
- 10) 遠藤英俊:第58回日本老年医学会 市民公開講座 「認知症予防最前線」, 2016.6.10(金) 金沢
- 11) 遠藤英俊:日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会 in 北九州 座長「認知症ケア1」2016年6月19日(日), 北九州
- 12) 遠藤英俊:第13回日本高齢者虐待防止学会 市民公開講座 「高齢者虐待と認知症」, 2016.7.15(金), 横浜

- 13) 遠藤英俊：第 35 回日本認知症学会学術集会 座長「実臨床の AD ; 治療には何が一番
役立つか?」, 2016.12.1 (木), 東京

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし